

生産管理システム構築のすべてコメント

このような趣旨の本は滅多にお目に書かれないのでありがたい。が・・・、入門書として、教材として使うのに、非常にいいと思う。ただ、範囲が広すぎるのをコンパクトにしたがために、1回読んだだけでは重要なところをスルーする危険もあるので、3回ぐらい繰り返し読みなおして、全体像を漏れなく習得するぐらいの意気込みが必要。あと、せっかくここまでカバーしてるのだから2点ほど、含有化学物質管理(世界各国の化学物質規制等)と、事故情報(製造物責任法、消費者庁など)について、章レベルで言及すると、より良かったのに。という点が、少し残念な点。

設計実務への悩みの即効薬として使える, 2010/3/3

本書は、まず生産管理の基礎概念・知識を全般的に解説しており、生産管理システムをこれから構築あるいは再構築しようとする実務者への最適なガイドになるだろう。それに加えて、外部設計の概要をデータベースの構造や具体的な項目レベルまでブレイクダウンしており、類書にはない実務的なテンプレートを提示している。これを使用することは、「生産管理システム」における機能設計領域の土台を組み立てる上での即効薬として効き目がある。初心者から中級レベルのSEまで、幅広い「生産管理」の実践的ノウハウ書としてすぐれた教科書・参考書と言える。

生産管理システム構築の全て, 2010/3/24

生産管理システムの理念から始まり、全体の枠組み、1つ1つのコンポーネントの内容と丁寧に説明しており、生産管理システムになじみのない読み手にもよくわかり、実際に生産管理システムに携わっている読者にも勉強になる内容である。また、従業員数 30 人未満の会社ではシステムの効果は低いと著者の経験から明快に言い切っているのもうなずける。できる事なら、著者の豊富な経験から各章毎に失敗談やエピソードまたはウンチクなどをコラムとしてビビッドに載せると本全体がもっと活気づくのではないか。星4つに少し欠けるところだが、切り捨てして3つとする。続編を期待したい。

SEだけでなく、ユーザー(経営者、生産管理担当者)こそ読むべき本, 2010/3/14

SEが現場を知らないために、あるいはユーザー側生産管理担当が自社の業務の特徴とニーズをうまくSEに伝えられなかったために、結果的に莫大な開発費を投入したにも拘わらず、使われない生産管理システム、注文書発行機能だけを使っているシステムが山ほどあります。自社の生産管理システム構築プロジェクトのメンバーが、SEに対して「自社の生産管理業務は現在こうなっている。但し、この部分だけは業務を改革してシステム化したい」と伝えるために、SEとのコミュニケーションを円滑にするためにも、この本を読むことをお勧めします。「ここにこう書いてあるじゃないか！」と伝えれば格好のコミュニケーションツールになります。この本は、工場の管理会計まで懇切丁寧に解説しているので、自社の会計担当も巻き込んで、経営にも役に立つ生産管理システムを構築するために、是非この本を読んで欲しい。

私は経営コンサルタントであり、SEとプロジェクトメンバーの間を仲介する立場にあり、要件定義の際、双方の思いを整理することが多くとても参考になりました。自分のクライアントにも是非薦めたいと思っています。

全体像を把握するのに最適！, 2010/2/23

SEという職業は、どうしても自分の得意な分野に目が向き、全体像を把握しない傾向が強い。私も昔は上司から「とにかく現場へ行け！」と叱咤されたことが多かったが、その本当の意味が本書には記されている。考えてみれば当たり前の話である。それなのに、なぜか目をそらし続けている事柄に、本書は正面から切り込んでいる。生産管理システムの構築経験のあるSEには耳の痛い話、あるいは一種の寒さ(?)を覚える内容もあるだろうが、経験の浅いSEにとっては、1つのテンプレートとして活用しやすい構成となっている。筆者の熱いメッセージが伝わってくる。

私のバイブル, 2011/12/23

業務とシステムの基本が満載です。

困ったら、これに立ち返ることにします(^)v

(以上、Amazon)

生産管理システムに悩むために

生産管理システムは、ランディングポイントを見つけるのが難しいものです。一大投資になるので、よりよいものを・・・とプロジェクトメンバーの全員が思うのですが、現場ニーズをうまく伝えられない為に、とんでもないものが仕上がってしまったり、改善するためのはずなのに、仕事が煩雑になってしまっただけという事例もたまにあります。その点、この本は管理会計にまでふみこんだ内容で、わかりやすく丁寧にかかれた良書です。設計する立場と、現場で使う立場があり、お互いが勝手によいことだという思いこみを防ぐために、SEの方にも、システムの導入を検討される現場の方にも必携の書です。かくいう私は、税理士で全くの門外漢になりますが、この本にたいへん助けられました。

いくつか読んだ生産管理システムの本の中で、この本が一番理解しやすかったのでご紹介します。

一番面白かった考え方は、

生産管理システムは、コックピット、もしくは野球のスコアボードを見習え、という発想です。コックピットは、「高度」「位置」「速度」「天候」「方向」等が一目でわかるようになっています。状況を把握するのに必要な指標がタイムリーに一目でわかるようでない困るのです。スコアボードも、状況を把握するために厳選された情報が一目でわかるように並んでいるという点で同じです。

これらと同様に、工場を管理するシステムでは、「受注」「購買」「生産」「販売」「在庫」の状況が、一目でわかるように情報を吸い上げられるのが理想です。

各機能別に要件を把握していると、最終的に経営者や工場長に的確なレポートを上げられることに価値があるということを忘れがちです。これは心に留めておきたいと思いました。テクニカルな本なので、細かいこともたくさん書いてあります。

というかそっちのほうメインです。興味ある人は読んでください。(個人 BLOG)

生産管理システムの習熟

この本1冊をよめば、生産管理システムを知るために必要な項目は網羅されていると思います。若手のシステムエンジニアに生産管理システムの知識を習得させようと思い購入したのですが、本人も復習や気付きを得ることができました。

(以上、楽天)

生産管理システムを中心に、製造業企業へのシステム導入に関して必要な業務知識やシステム知識を網羅した本。ERP や SCM といった視点ではなく、あくまで生産管理という視点で書かれているのが面白い。販売管理システムや在庫・購買システム、管理会計システムはその「周辺システム」という位置づけで解説されている。

生産管理システムの基礎的な部分を勉強したくて買った本だが、他業務の入門編としてもなかなか悪くない内容だと感じた。ただし、ERP システムを担当したことがあるなど、ある程度の経験がないと腹落ちするのは難しいと思われる。

面白い点としては、各システムの外部設計書が附章として掲載されていることだ。帳票や必要項目が具体的にイメージできて、他の本には無いアイデアでなかなか良い。

読みやすいし、わかりやすいと思う。

巻末にある設計書なども面白い。

非常に分かり易い！

しかも事例が豊富で、生産管理の基礎の基礎から説明してくれています。おすすめ。

生産管理システムの全体像が事例も交えて分かりやすく説明されている。

特に最後に書かれている生産管理システムの外部設計書は他の本にはない有用なもの。

本書の最大の特徴は、生産管理システムを工場管理全般まで広げて捉え、システム利用者の視点から生産実務を説明していることであり、これまでには無かった視点から生産管理を捉えている。

えてしてSEは「習ったこと、聞いたこと」を前提に、システムの枠組みを造ってしまい勝ちで、生産管理というと直ちにMRPと考えるしまうが、本書を読むとMRPやBOMなどは、現実の

製造現場とは関わりの無い、理論やITの問題という、当り前のことに気づかされる。現実には生産管理システムは導入しているが、機能していない、使い勝手が悪い、という工場が多い。SEはもっと現場・現実を見ろということであろう。

本書の内容に基づく生産管理パッケージが実際に開発されており、その「外部設計書」が附章となっているのも珍しい。著者が言うようにシステム開発に際してのテンプレートとして活用できそう。また管理者層には、現在の自工場のITシステムを再評価するベンチマークとして活用できるのではないか。

アプリケーションSEと発注側の工場担当者、両者にとって実務書として推薦できる良書と思われる。

(以上、BUKULOG)

生産管理システムに悩むために

生産管理システムは、ランディングポイントを見つけるのが難しいものです。一大投資になるので、よりよいものを・・・とプロジェクトメンバーの全員が思うのですが、現場ニーズをうまく伝えられない為に、とんでもないものが仕上がってしまったり、改善するためのはずなのに、仕事が煩雑になってしまっただけという事例もたまにあります。その点、この本は管理会計にまでふみこんだ内容で、わかりやすく丁寧にかかれた良書です。設計する立場と、現場で使う立場があり、お互いが勝手によいことだという思いこみを防ぐために、SEの方にも、システムの導入を検討される現場の方にも必携の書です。かくいう私は、税理士で全くの門外漢になりますが、この本にたいへん助けられました。

生産管理システムの習熟

この本1冊をよめば、生産管理システムを知るために必要な項目は網羅されていると思います。若手のシステムエンジニアに生産管理システムの知識を習得させようと思い購入したのですが、本人も復習や気付きを得ることができました。

いくつか読んだ生産管理システムの本の中で、この本が一番理解しやすかったのでご紹介します。

一番面白かった考え方は、

生産管理システムは、コックピット、もしくは野球のスコアボードを見習えという発想です。

コックピットは、「高度」「位置」「速度」「天候」「方向」等が一目でわかるようになっています。状況を把握するのに必要な指標がタイムリーに一目でわかるようでない困るのです。スコアボードも、状況を把握するために厳選された情報が一目でわかるように並んでいるという点で同じです。

これらと同様に、工場を管理するシステムでは、「受注」「購買」「生産」「販売」「在庫」の状況が、一目でわかるように情報を吸い上げられるのが理想です。

各機能別に要件を把握していると、最終的に経営者や工場長に的確なレポートを上げられることに価値があるということを忘れがちです。

これは心に留めておきたいと思いました。

テクニカルな本なので、細かいこともたくさん書いてあります。

というかそっちのほうメインです。興味ある人は読んでください。

生産管理システムを中心に、製造業企業へのシステム導入に関して必要な業務知識やシステム知識を網羅した本。

ERP や SCM といった視点ではなく、あくまで生産管理という視点で書かれているのが面白い。販売管理システムや在庫・購買システム、管理会計システムはその「周辺システム」という位置づけで解説されている。

生産管理システムの基礎的な部分を勉強したくて買った本だが、他業務の入門編としてもなかなか悪くない内容だと感じた。ただし、ERP システムを担当したことがあるなど、ある程度の経験がないと腹落ちするのは難しいと思われる。

面白い点としては、各システムの外部設計書が附章として掲載されていることだ。帳票や必要項目が具体的にイメージできて、他の本には無いアイデアでなかなか良い。

非常に分かり易い！

しかも事例が豊富で、生産管理の基礎の基礎から説明してくれています。おすすめ。

■ Overview

Sub systems which compose production management system and concept for the cost

management are introduced.

■ My Impression

I could understand the main function of production management and its key concept. In my understanding, it is composed of MPS, WIP and MRP. It is new for me that MRPII would be connected to ERP and SCM. This is useful to grasp overall picture.

生産管理の用語、基礎知識だけでなく、筆者のあるべき論、考え方が入ってること、各サブシステム毎の要件定義テンプレートがついていて、より具体的に業務フローとシステムのイメージが出来るところが良い点と思う。

旅好きおやじ

生産時期・生産方式・設備レイアウト・作業者と工程・品種と生産量・工程への指示の6つの視点で業務分析し、システム設計をするというコンセプトになっている。巻末にのっている生産管理システムの外部設計書はDBの項目の関連図、業務フロー、DFDなどが書かれており設計をする人間にとってはヒントになると思われ、この設計書を元にシステムが作れそうな勢いである。販売管理、生産計画、購買、在庫のあたりはこの本よりも良い設計書を作れる自信もあるが、工程絡みは弱いので参考になった。